

愛に溢れた雰囲気 ～ 手をさしのべる ～

2025 年 10 月 1 日 筆者は、新渡戸稲造記念センターから、3 周年記念(2022 年 10 月開催)『がん哲学外来 駅前がんカフェ in 西千葉』(真壁恵子 代表)(千葉県千葉市中央区 西千葉教会)赴いた。筆者は、講演『天国のカフェと言葉の処方箋』(画像)の機会が与えられた。多数の参加者であった。会場から複数の質問も寄せられた。その後、別室で個人面談の機会が与えられた。大変有意義な充実した貴重な時となった。スタッフの心温まるおもてなしは、ただただ感謝である。下記をさり気なく語った。

【がん哲学】 ～ 人は、がんとともに どのように生きていくのか ～

- 1) 病気になったとき、人はどのように感じ、何を考えますか？
- 2) 家族は、どのように患者さんを 支えることができますか？
- 3) 周りの人は、どのように患者さんを 支えることができますか？
- 4) 人の支えは、患者さんに、どのような効果をもたらしますか？

【がん哲学外来】とは(画像)

『がん哲学外来の絶対性大原理』

愛がなければ全ては無意味

『がん哲学外来の真髄』

- 1) 愛に溢れた雰囲気
- 2) 静かな口調
- 3) にもかかわらず

『がん哲学外来の心得』

- 1) 仮面を外し、心の垣根をとる
- 2) 秘密は守る、リラックスした時間を過ごす
- 3) 正直になる、積極的に人々に仕える

「医療者の 2 つの使命」

- 1) 「学問的、科学的な責任」で、病気を診断・治療する――>学者的な面
- 2) 「人間的な責任」で、手をさしのべる――>患者と温かい人間としての関係。

《樋野先生の夢》

7人の侍：「勝海舟・新島襄・内村鑑三・新渡戸稲造・南原繁・矢内原忠雄・吉田富三」と先生の恩師：「菅野晴夫先生（癌研時代）、Alfred George Knudson 博士（アメリカ時代）」と樋野興夫先生とで天国でメディカル・カフェを開催すること。希望者はお茶係に採用してくださるはずです。



「がん哲学外来」

患者の個性を引き出す。
個性を引き出された患者は
自分の役割・使命を知る。

樋野興夫



希望をもって生きる人を
誰が病人と呼ぶのでしょうか。

樋野興夫

